

健幸都市くさつの推進に向けて

～平成31年度の健幸都市づくり推進事業の主な取組
(我が事・丸ごと健幸プロジェクト2019)について～

平成31年2月14日
健康福祉部
健康福祉政策課



草津市健幸都市宣言および草津市健幸都市基本計画の策定について

本市では、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行い、だれもが生きがいをもち健やかで幸せに暮らせる健幸都市づくりを推進するため平成29年3月に、「草津市健幸都市基本計画」を策定いたしました。

草津市健幸都市宣言

生涯にわたって心も体も健やかで幸せに過ごせること

これはわたしたち共通の願いです

心身の健康には 自分の状態を知ること 適度な運動と休養

バランスのとれた食事など 一人ひとりの取組が大切です

美しい自然や 住みやすい都市環境も大切です

そして ともに住む人と人との絆や協働も大切です

くさつは いにしえから 東海道と中山道がまじわる交通の要衝

宿場町として栄えてきました

人と人が出会い 心と体を休め 旅の疲れを癒してきました

琵琶湖・田園などの豊かな自然環境もあり

そこから得られる 恵みも豊富です

今を生きるわたしたちも この地で 出会いと自然に感謝しながら

住み続け 訪れることで 健幸になれるまちを

ともに創造していきましょう

草津市は 生涯にわたって 一人ひとりが自らの健康を大切にし

ともに支え合い ここに暮らすことによって

絆や喜びが生まれ 幸せが感じられる

笑顔あふれるまちを目指して

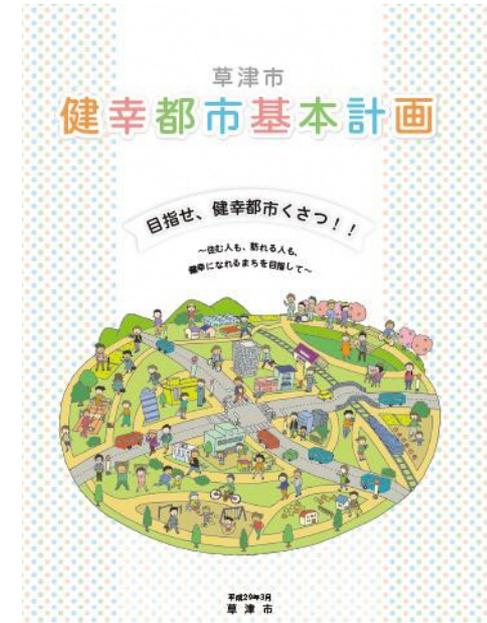
ここに「健幸都市くさつ」を宣言します。

平成28年8月28日 草津市長 橋川 渉

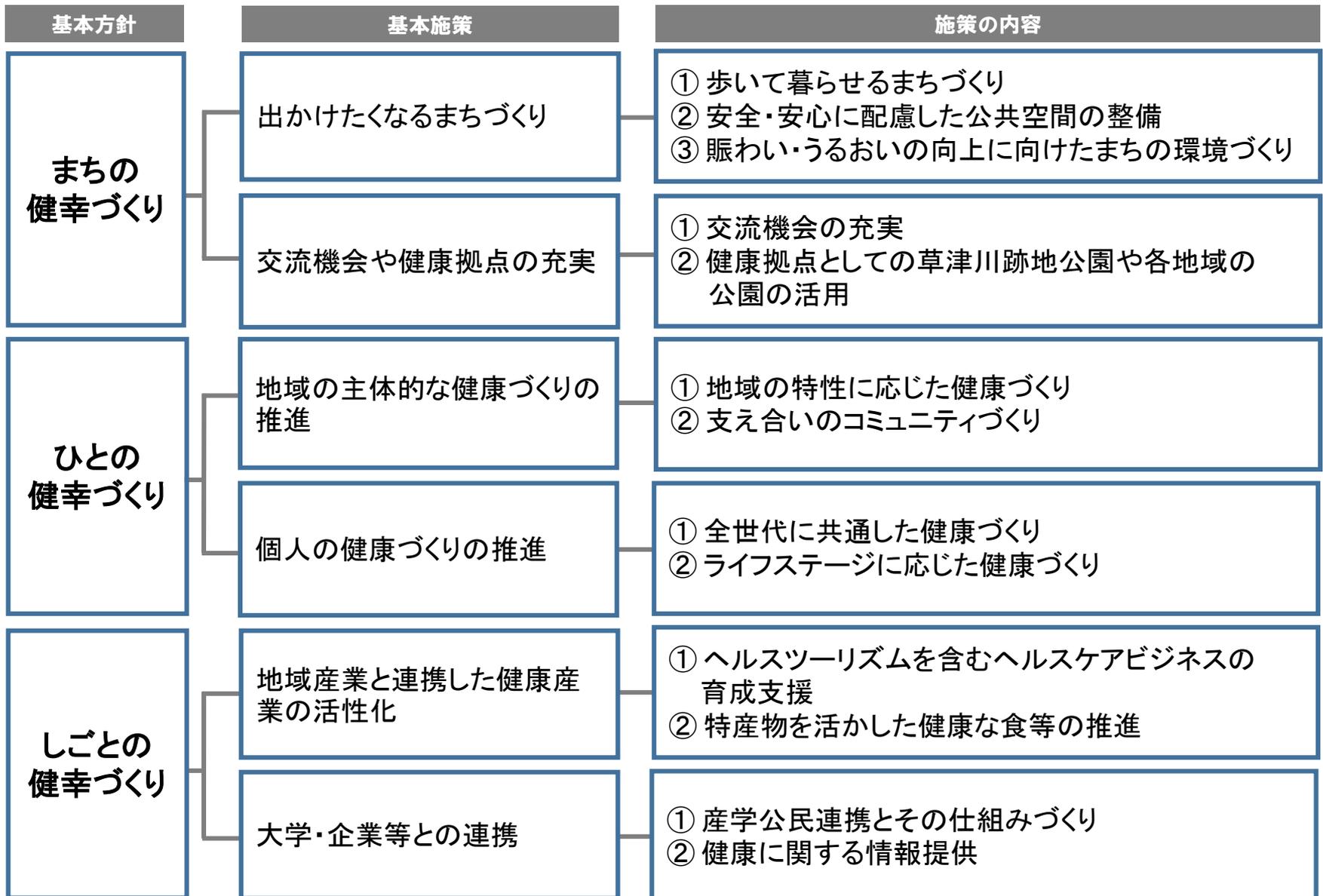
草津市健幸都市基本計画

- 「第5次草津市総合計画」を上位計画とし各種関連計画との整合を図りながら、市の様々な関連計画を健幸の側面から捉え、健幸都市実現のための取組を連携・強化していく計画です。

- 「草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、本計画においても「まち」「ひと」「しごと」を切り口に、健幸づくりの取組を定めています。
- 計画期間は、平成29から平成34年度までの6年間です。



健幸都市基本計画の体系



草津市健幸都市基本計画

赤字部分：幹事会意見を踏まえ追記

基本
施策
基本
方針

《まちの健幸づくり》

- (1) 出かけたくなるまちづくり
- (2) 交流機会や健康拠点の充実

《ひとの健幸づくり》

- (1) 地域の主体的な健康づくりの推進
- (2) 個人の健康づくりの推進

《しごとの健幸づくり》

- (1) 地域産業と連携した健康産業の活性化
- (2) 大学・企業等との連携

各
施策
ごとの
主な
重点
取組
と
進捗
状況

①コンパクトシティ・プラス・ネットワークのまちづくりに向けた計画の策定

⇒草津市立地適正化計画、草津市版地域再生計画、草津市地域公共交通網形成計画を策定(H30)

②(仮称)市民総合交流センターの整備

⇒事業用地の取得及び整備を行う民間事業者の選定(H29)、民間事業者による設計等を実施(H30)

③草津市バリアフリー基本構想の推進

⇒草津駅の点状ブロック等の設置補助や駅周辺の歩道改良工事实施(H29・H30)

④ガーデンシティくさつの推進

⇒市内ガーデニングサークルへの支援(H29・H30)

⑤草津川跡地公園でのウォーキング等を中心とした健康イベントの実施

⇒草津川跡地公園で健幸フェア・健幸ウォークを実施(H29・H30) など

①各まちづくり協議会の健幸宣言実現に向けた取組の推進

⇒地区別の健康データの分析を実施(H30)

②くさつ健幸ポイント制度

⇒健康増進アプリ「BIWA-TEKU」がスタート(H30)

③禁煙対策、受動喫煙対策の推進

⇒健幸くさつチャレンジ禁煙事業を実施(H29・H30)

④地域包括ケアシステムの推進

⇒在宅医療・介護連携の推進、認知症に関する啓発、介護予防・日常生活支援サービス事業、助け合い・支え合いの地域づくり活動の充実等を展開(H29・H30)

⑤高齢者の社会参加・生涯活躍社会の構築に向けた取組の推進

⇒啓発リーフレットを作成・配布

など

①ヘルスツーリズムの開発

⇒開発に向けたワークショップやモニターツアーを実施(H29・H30)

②アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)の活用

⇒健幸都市づくりに関係するテーマについてのセミナー等および社会実験事前調査事業を実施(H29・H30)

③健幸都市宣言賛同事業所の募集

⇒健幸都市宣言賛同事業所数：178団体(平成31年1月末時点)

④草津ブランドの構築・PR

⇒草津野菜マルシェ等のイベントにおけるPRを展開(H29・H30)

⑤健幸都市くさつの啓発

⇒シンポジウムや健幸フェア等のイベントを実施(H29・H30) など

平成31年度の健幸都市づくり(我が事・丸ごと健幸プロジェクト2019)

誰もが生きがいをもち、健やかで幸せに暮らし続けられる健幸都市の実現に向け、行政や市民、地域、大学、企業、団体などあらゆる主体が「健幸」を”我が事”として意識し、各主体の連携を深め、様々な施策を“丸ごと”で進めていくことができるよう平成31年度は主に以下の取組を総合的に実施していきます。

まち

①楽しく歩ける路面標示の設置 **推**

事業費500千円(草津未来研究所)
駅周辺等のまちなかに主要施設等の目的地までの距離や消費カロリー等を示す路面標示の設置等、楽しく歩いてもらえる仕掛けを作ります。
H31:路面標示デザイン案,全体配置計画作成案
H32:事業実施

②思わず歩きたくなる意識啓発 **推**

事業費142千円(健康福祉政策課)
駅から徒歩による移動を選んでもうインパクトのあるポスター・横断幕等の掲示を駅前やデッキ等で行います。

③(仮称)健幸ステーションの整備 **推**

事業費270千円(健康福祉政策課)
855千円(長寿いきがい課)
健康情報や自らの健康状態について知りつつ、地域住民等と交流を図りながら自らの健幸づくりを進めていくことができる拠点を整備します。
H31:①市役所②ロクハ荘・なごみの郷
H32以降:その他施設への拡大

ひと

①「草津・たび丸kitchen」を活用した食育推進 **推**

事業費314千円(健康増進課)
外部委託等による草津市産の野菜等を活用したレシピの拡充ならびに、「草津・たび丸Kitchen」を活用し食育推進を啓発をしていくことで、野菜の摂取量の増加につなげます。

②フレイル予防・認知症施策の推進

事業費2,411千円(長寿いきがい課)
528千円(健康増進課)
フレイル予防の観点に着目し、新たに介護予防拠点等での健康教室や地域サロン等への専門職種の派遣を行います。また、認知症施策を推進するための条例の制定の検討を行います。

③地域共生社会に向けた取組

事業費951千円(健康福祉政策課ほか)
地域住民等が主体的に地域課題を把握し解決を試みることができる地域のきずなづくり、支え合いの仕組みの構築に向けて、地域共生社会についてのセミナー等を開催し、市民等への意識啓発を図ります。

しごと

①草津市版ヘルスツーリズムの実施

事業費4,000千円(商工観光労政課)
本市特有の地域資源の掘り起しを行い、着地型観光の観点から「健幸」をテーマにした本市独自のヘルスツーリズムとして体験型旅行商品の開発を行い、併せて自走化に向けた検討を行います。

②健康経営の普及促進

事業費150千円(商工観光労政課)
健康経営を実践している企業・法人を顕彰する制度である「健康経営優良法人認定制度」の認定を受ける企業・法人を増やすため、市内の中小企業等に対し、健康経営の導入を啓発します。

③UDCBKの活用

事業費500千円(草津未来研究所)【再掲】
協定大学や企業との連携を深め、市民とともに働く世代や若年層の健幸づくりを進めるとともに、課題の分析や効果的な解決方法の検討等を協働して検討します。(路面標示デザイン案,全体配置計画作成案ほか)

①「健幸都市くさつ」の広報・啓発

引き続き賛同事業所の拡大に取り組むとともに、健幸関連イベント等でのロゴマーク・バッジ等の使用促進、その他効果的な広報啓発戦略を実施します。

②健幸フェア等のイベント開催

健幸フェア等の健幸関連イベントを引き続き開催するとともに、より効率的かつ効果的な開催の検討を行います。

③推進チームの継続

草津市健幸都市づくり推進チームについて、初年度の活動や提案内容を踏まえ、より効果的な提案に向けて活動を継続します。(推:提案事業)4

まちの健幸づくり

計画における課題と方向性

課題

- 自動車の過度な利用を減らし、健康づくりにつながる徒歩や公共交通による移動を増やす
- 様々な施設を活用し、交流拠点を増やす

等

方向性

- 一人ひとりの移動が、自動車から徒歩等を含む公共交通の利用へと転換していくように促していく
- 出かける機会や交流機会の増加を図るため、市施設の活用や様々なイベントの開催等を行う

等

推進チーム提案事業

楽しく歩ける路面標示の設置

思わず歩きたくなる道、楽しく歩ける道の整備として、駅周辺等に主要施設等の目的地までの距離や消費カロリー等を示した路面標示等の設置を検討しています。

このことをUDCBK社会実験準備事業において、草津市健幸都市基本計画に関連するテーマとして設定し、実現可能性の検証を委託し、楽しく歩ける路面標示等のデザイン案等について募集し、大学や市民とともに検討していく予定です。

【予算額】

UDCBK社会実験準備事業500千円の一部を充当



(岐阜市の例)

推進チーム提案事業

思わず歩きたくなる意識啓発

駅からの近距離移動にタクシーやバスを利用している方が思わず「歩く」ことを選択してしまうインパクトのあるポスター・横断幕の掲示を、駅前やデッキで行います。徒歩移動を選択してもらい、歩く習慣の定着や生活習慣病の予防につなげ、草津市に住む人も訪れる人も健幸になってもらいます。また、「健幸都市くさつ」の啓発も併せて進めます。

【予算額】142千円

(内訳)ポスター制作:69千円
横断幕制作:73千円



(イメージ)



推進チーム提案事業

(仮称)健幸ステーションの整備

健康に関する情報や自らの健康状態を知りつつ、地域住民等と交流を図りながら自らの健幸づくりを進めていくことができる拠点を整備します。市役所(1階市民サロン)、なごみの郷、長寿の郷ロクハ荘について、各施設の場所や特性に応じて、健康測定機能、情報発信機能、健幸コンサルジュ機能、市民活動・交流機能等を組み合わせ、住む人も訪れる人も健幸になれる身近な拠点を整備します。まず、各拠点に合ったコンセプトを設定し整備を進めます。

【予算額】1,125千円

(内訳)

- ・市役所:270千円(備品購入費等)
- ・ロクハ荘:755千円(備品購入費)
- ・なごみの郷:100千円(備品購入費)

ひとの健幸づくり

計画における課題と方向性

課題

- 食事の大切さや野菜の摂取の啓発に取り組む
- 高齢者の生きがいづくり、健康の維持向上等を通じた、介護予防に向けた取組を強化する
- 誰もが住み慣れたまちで安心して暮らせるよう、支え合いのコミュニティづくりの取組を更に進めていく

等

方向性

- 健康づくりのきっかけづくりとして、食事や住環境など、健康に関する意識が高まるきっかけになるような普及・啓発に市内企業や飲食店等と連携し取り組む
- 高齢期の健康づくりについては、これまで取り組んできた介護予防の取組を更に推進する
- 誰もが住み慣れた地域や家庭で自立した生活を送ることができる「地域包括ケアシステム」の構築を目指す
- 「草津市協働のまちづくり推進計画」や「草津市地域福祉計画」に基づく取組(地域共生社会の実現等)を草津市社会福祉協議会と計画的に進める

等

推進チーム提案事業

「草津・たび丸kitchen」を活用した食育推進

外部委託や高校等との連携による草津市産の野菜等を活用したレシピの拡充ならびに草津市クックパッド公式キッチン「草津・たび丸kitchen」を活用した啓発をしていくことで、野菜摂取量の増加および食育の推進につなげます。

【予算額】314千円

(内訳)事業委託等:314千円



フレイル予防・認知症施策の推進

介護予防や生活習慣病の重症化予防等の取組をより一層推進するため、フレイル予防の観点に着目し、新たに介護予防拠点等での健康教室や、地域サロン等でのフレイル予防活動(専門職種の派遣)を実施するとともに、草津市認知症施策アクション・プランに掲げる「認知症があっても安心して生活できるまちの実現」を目指し、認知症施策に関する条例の制定に向けた検討を行います。

【予算額】2,939千円

(内訳)フレイル予防の推進:2,284千円

認知症施策に関する条例制定検討:655千円



地域共生社会に向けた取組

少子高齢化や核家族化の進行、地域のつながりの希薄化等が原因による地域力の低下に対し、地域住民等が主体的に地域課題を把握し解決を試みることができる地域のきずなづくり、支え合いの仕組みの構築に向けて、地域共生社会についてのセミナー開催や現在の地域支え合い運送への支援、市社協による担い手育成講座への支援など、地域共生社会の実現に向け、推進します。

【予算額】951千円

(内訳)地域支え合い運送支援事業:520千円

市民(関係者)向けセミナー等:245千円

地域共生社会担い手育成講座:186千円

しごとの健幸づくり

計画における課題と方向性

課題

- ヘルスケアビジネスを創出するため、まず市の課題やニーズを洗い出し、それらの解決につながるサービスを検討する
- 市の特性を活かし、大学や企業・団体と連携して、効果的に健康づくりを推進していく

方向性

- 草津市の様々な観光資源や歴史遺産等を活かし、旅行という非日常の中で健康づくりにも資するツーリズムの開発を進め、訪れる人も健康になれるまちを目指す
- 市内の大学や企業・団体とともに、産学公民連携による健幸都市づくりを進める
- 事業所等の健幸宣言を通じた労働者の健康増進や、ワーク・ライフ・バランスの推進を図る

草津市版ヘルスツーリズムの実施

「健幸」をテーマとしたヘルスツーリズムを定着させることにより、市民の健康増進や観光振興を図り、「健幸都市」としての魅力向上を図ります。

また、着地型観光の振興により、交流人口の増加や地域資源の掘り起し・磨き上げを促進します。

平成30年度の実証事業を踏まえ、引き続き、本市特有の地域資源の掘り起しを行い、着地型観光の観点から「健幸」をテーマにした本市独自のヘルスツーリズムとして体験型旅行商品の開発を行い、併せて自走化に向けた検討を行います。

【予算額】4,000千円



※着地型観光…旅行者を受け入れる地域が観光商品の開発、運営、情報発信等を行うこと

健康経営の普及促進

市内の企業が健康経営に取り組むことで、企業側は、労働生産性を高め、組織の強化・活性化・ブランド力の向上につなげることが可能となります。また、従業員側は、健康増進や生活の質の向上、働きがいを得ることが期待できます。

健康経営を実践している企業・法人を顕彰する制度である「健康経営優良法人認定制度」の認定を受ける企業・法人を増やすため、市内の中小企業等に対し、健康経営の導入を啓発します。

【予算額】150千円



※健康経営…従業員の健康保持・増進の取組が、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えのもと、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践すること

UDCBKの活用

産学公民の多様な主体が気軽に集い草津の未来のまちづくりについて話し合う場であるUDCBKをプラットフォームとして、都市が持つ課題を共有し、出されたアイデアを実行に移す社会実験準備事業等を行います。

健幸都市づくり推進チームでは、まちなかを楽しく歩ける路面標示の設置を検討していることから、平成31年度のUDCBK社会実験準備事業では「楽しく歩ける路面標示等の設置」をテーマの一つとして募集し、大学や市民とともに研究します。

【予算額】500千円の一部を充当(再掲)



分野横断的な健幸都市づくりの推進

計画全体の基本理念

市の総合政策として健幸都市づくりを進め、将来的に高齢化・人口減少が進んでも、持続可能なまちとなるよう、行政や市民、地域、大学、企業・団体等、あらゆる主体が「健幸」を意識して取組を進めるとともに、「健幸」を切り口に各主体の連携を進めていくことによって、更に全市的な取組へと発展していくことを目指します。

「健幸都市くさつ」の広報・啓発

健幸都市宣言賛同事業所(平成31年1月末現在、178団体)や市役所、健幸都市づくり関連事業実施の際等におけるロゴマーク等の使用促進、健幸都市ロゴマークバッチの制作や健幸都市啓発スライドショーの制作・放映、その他効果的な広報啓発戦略をこれまで以上に力を入れ、実施します。

【予算額】190千円



健幸フェア等のイベント開催

健幸フェア等の健幸関連イベントを引き続き開催するとともに、より効率的・効果的な開催の検討を行います。

● 健幸フェア

草津市に住む人も訪れる人も「健幸」になってもらうことを目的に健康拠点である草津川跡地公園において日常生活で健康に過ごすヒントや知識を学ぶイベントを実施します。

平成31年度は今年度同日開催した健幸ウォークを融合し、ウォーキング要素も取り込んだイベントとします。

【予算額】1,280千円



推進チームの継続

健幸都市づくりを「市の総合政策」として推進していくため、市職員による部局横断的で常設の「草津市健幸都市づくり推進チーム」を平成30年4月に設置。集結したメンバーが健幸都市基本計画に位置付けられている健幸都市づくりの取組等について、より効果的な手法の検討や一部署だけでは解決できない複雑化・多様化した課題に対し横断的に議論を行い、健幸都市づくりの取組を推進するための施策の企画・立案を行います(平成30年度は会議を6回開催)。

平成31年度は、提案された4事業を実施予定です。より効果的な提案に向けて活動を継続します。

